暗夜訓蒙図彙

晴の秋も吉原ばかり月夜かなとは晋子の
発詞めしても見る哉武蔵野の月さへ
この里の月相は恥らん三郎の
賊のむけはう紀もふよりハ一ことに
東都の繁華と未しらぬ誰よ
誹諧のまねあるなりやとし晋子と
志多ふへしけりめて月まいさ

天文

日
じつ
ひ
又あさひ
日為陽精
朔
さく
ついたち
望

雲
くも
霧
きり
朝きり
雪羽
露
つゆ
市井
雨
あめ

地理
雪
牽牛
織女

川
橋
封疆
畔

襟坂
閭
花街
道

居處
岐旁
石

娼婦
人物

針婦
逸文
庖人
九曲

衣服
やりて
舟子
せんどう

長袖
枕
帯
笠

草履
屐
箏
三絃

器用
提燈
花紙

蛙
螢
禽獸

鷗
鳥
卵

草樹
狐
きつね
猫
ねこ

竹
櫻
菊
躑躅
義董

彩色と桔梗の中に小紫植　至
茶を煎しすゝ進くなる哉　純廬
吸口くれの奥を匂はせる　至
月をうらしくと蹲をすく又　蓑蔵
禁門あはせかるく花の山迎へ　至
回えたく千種の嶽なりけり　至

花の雲雨くも淺黄に　田社
行児ら身をひこすり行やなの山　淑十

寶暦九卯霜月
東武　小川彦九郎
書林　万屋弥市